

一 般 質 問

Q 防災について



山内 議員

一、防災について今年度、津波避難計画の策定業務が発注されているが、津波災害時の指定避難場所への経路が小平中学校、おにしか更生園へは一本しかないが、対処方法を伺います。

風の強い時など防災行政無線が聞こえない、聞き取れないという話を耳にするが、個別受信機などの対策を考えているか伺います。

平成26年4月に地区防災計画制度が施行されたが、取組みと進捗状況を伺います。

二、移住定住について先日、移住等体験住宅が完成しましたが、今後のPRや取組みについて伺います。

また、人口減少の対処には自然増と社会増がありますが、移住定住による社会増の体験住宅は大変良いことだと思います。ですが、移住定住に対する細部の助成が薄いと思われまますので、この辺についての考え方を伺います。

A 地域防災力の向上に努める

町長 関 次 雄

一、鬼鹿地区については、市街地の形状から新たな道路を設置することは大変難しい。また、小平地区においても大規模な改修が見込まれるため困難と思われる。

防災行政無線ですべてを伝えるのは限界があると考えている。また、個別受信機は各戸配機が有効であるが、設置費用が高額なので国の補助等を模索し検討する。

地区防災計画制度の周知を図ると共に、計画を策定する際には情報提供などの支援を行うなど、一層の地域防災力の向上に努める。

二、早々に町ホームページに移住定住サイトを掲載し、写真や要綱、それから助成についても、どのような助成が良いか決定して掲載したいと考えている。

Q 安定した農業施策と今後の農地保全の取組みについて



板垣 議員

一、国の農業施策において、米の生産調整や直接支払い交付金の廃止に伴い、小平地区の農業所得が約7千200万円程の減少が予想され、的確な本町の農業施策が必要となるが、来年度に向け所見を伺う。

二、離農者等により農業戸数の減少・農地の流動化など今後、厳しい農業状況が考えられ、地区全体の農地の保全や安定した農業経営が出来るよう本町の農業振興を図るための取組みについて伺う。

A 有意義な施策の実施と次世代に

引継ぐための積極的な関与と支援を

町長 関 次 雄

一、平成30年産米の生産目安の提示を踏まえて、農業者が安心して作付け出来るように調整する。町として農業者・農協の見解を聞き、将来につながる振興策を実施するべきと考えており、有意義な施策を実施してまいります。

二、農業振興策を実施するには、農協の果たす役割が重要で、農業者の理解と農協としての方針を明確化し、農業政策の動向を踏まえて町の特徴を生かした営農方針を掲げ、農業者の理解と所得の向上を図ることが必要で、各農家の実態を考慮し適切な指導を行い、農協として機能強化を図られ、振興すべき方向性が示された際には次世代に引継ぐ農業施策に対して積極的な関与と支援を行う。

また、農地の流動化や保全対策について、三位一体で守り抜くため行政・農協・農業者それぞれの責任と意思疎通が大事であり、町も農協も現状の農地を守るために真剣に取組み、未来ある農業の在り方について農協とも話し合いをする。

A 新たな課題として取組みを

農業委員会 会長 吉 本 淳 一

一、地域農業の在り方について、農協・改良区と意見交換をしてきたが、前進的な案もなく、今までの政策としてやってこなかったのが事実であり、今回の件を踏まえ今後とも農地の保全と水田農業を維持し、栽培技術の向上を図り農地保全を進め、地域農業の在り方について関係団体と協議を進める。また、今後の新たな課題として農業委員会でも取り組んでいきたい。